

## (2) 森林の有する多面的機能の発揮並びに林産物の供給及び利用に関する目標

### (1) 基本的な考え方

○ 森林及び林業に関する施策を推進していく上で、森林所有者等による森林の整備及び保全、林業・木材産業等の事業活動や林産物の消費に関する指針としての役割

### (2) 森林の機能と望ましい姿

- 日本学術会議答申(平成13年11月)では、森林の機能を8つに分類。このうち、属地性のある機能について、望ましい森林の姿を提示。
- 「生物多様性保全機能」は一定の面的な広がりにおいて、様々な生育段階や樹種から構成される森林が相互に関係しながら発揮される機能であることから、原生的な森林生態系など属地性のあるものについてのみ望ましい姿を提示。
- 「地球環境保全機能」は、二酸化炭素の吸収や炭素の固定、蒸発散作用等の森林の働きが保たれることによって発揮される属地性のない機能であるため、区域設定の対象とはしない。
- 地域においては、発揮を期待する機能ごとの区域を明らかにし、森林の整備・保全を推進。

#### ○水源涵養機能

水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い土壌を有する森林



#### ○山地災害防止機能/土壌保全機能

樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林



#### ○快適環境形成機能

遮蔽能力や汚染物質の吸着能力が高く、諸被害への抵抗性が高い森林



#### ○保健・レクリエーション機能

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理される森林



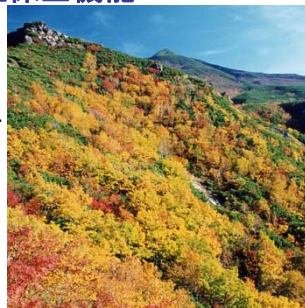
#### ○文化機能

史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観等を構成している森林



#### ○生物多様性保全機能

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林



#### ○木材等生産機能

木材として利用する上で良好な樹木で構成され、成長量が高い森林



## (2) 森林の有する多面的機能の発揮並びに林産物の供給及び利用に関する目標

### (3) 森林の有する多面的機能の発揮に関する目標

- ・木材等生産機能の発揮が特に期待される育成単層林を整備するなど森林資源の循環利用を図るとともに、公益的機能の一層の発揮を図るため自然条件等を踏まえつつ育成複層林への誘導を推進

### (4) 林産物の供給及び利用に関する目標

- ・平成32年における総需要量の見通しは7,800万m<sup>3</sup>。国産材の供給量及び利用量の目標は3,900万m<sup>3</sup>。総需要量に占める国産材の割合は50%の見込み

#### <森林の有する多面的機能の発揮に関する目標値>

	H22年 (現況)	目標とする森林の状態			指向 状態 (参考)
		H27年	H32年	H42年	
森林面積(万ha)					
育成単層林	1,030	1,030	1,020	1,000	660
育成複層林	100	120	140	200	680
天然生林	1,380	1,360	1,350	1,310	1,170
合 計	2,510	2,510	2,510	2,510	2,510
総蓄積(百万m <sup>3</sup> )	4,690	4,930	5,200	5,380	5,450
ha当たり蓄積(m <sup>3</sup> /ha)	187	196	207	214	217
総成長量(百万m <sup>3</sup> /年)	74	68	61	55	54
ha当たり成長量(m <sup>3</sup> /ha年)	2.9	2.7	2.4	2.2	2.1

#### <木材供給量の目標>

(単位:百万m<sup>3</sup>)

	H21年 (実績)	H27年 (目標)	H32年 (目標)	H42年 (参考)
木材供給量	18	28	39	50

#### <木材の用途別利用量の目標値と総需要量の見通し>

(単位:百万m<sup>3</sup>)

用途区分	利用量			総需要量		
	H21年 (実績)	H27年 (目標)	H32年 (目標)	H21年 (実績)	H27年 (見通し)	H32年 (見通し)
製材用材	11	14	19	26	27	30
パルプ・ チップ用材	5	9	15	29	36	37
合板用材	2	4	5	8	8	9
その他	1	1	1	2	2	2
合計	18	28	39	65	72	78

- 注 1: 用途別の利用量は百万m<sup>3</sup>単位で四捨五入している。  
 2: パルプ・チップ用材は、主に製紙用に利用されてきたが、平成32年利用量の目標のうち6百万m<sup>3</sup>はパーティクルボード等木質系材料としての利用や木質バイオマス発電等エネルギー源としての利用を見込んでいる。  
 3: 「その他」とは、杭丸太、しいたけ原木、薪炭用材等である。

#### (参考)森林の区分別の内訳

育成単層林	(万ha)
木材等生産機能の発揮が特に期待されるなど育成単層林として整備される森林	660
公益的機能の一層の発揮のため自然条件等を踏まえて育成複層林に誘導される森林	350
公益的機能の発揮のため伐採が強度に規制されているなど天然生林に誘導される森林	20
天然生林	(万ha)
主に天然力により健全性が確保され公益的機能の発揮のため天然生林として維持される森林	1,150
各種機能の発揮のため、継続的な育成管理により育成複層林に誘導される森林	230

- 注 1: 森林面積は10万ha単位で四捨五入している。  
 2: 目標とする森林の状態及び指向する森林の状態は、H22年を基準として算出している。  
 3: H22年の値はH22年4月1日現在の数値である。